

＜特別支援教育コーディネーター研修会＞

# 平成24年度特別支援教育推進校

## 広島市立己斐上中学校の取組

～KUデザインによる授業改善と  
個別の取組について～

平成25年1月25日(金)

場所: 広島市立広島特別支援学校

発表者 広島市立己斐上中学校  
特別支援教育コーディネーター 置名 公彦

太田川

己斐上中  
標高200m

登校坂

のぞみ  
幼稚園

己斐上小  
標高140m

ここより下の方から  
も登校してきます。  
この辺は標高50m

### 己斐上中学校について

- 標高 200m
- 全体面積 68837m<sup>2</sup>  
グラウンド面積15060m<sup>2</sup>  
(マツダスタジアムグラウンド面積12710m<sup>2</sup>)
- 生徒数 最大 昭和62年(開校) 546人  
最小 平成22年 122人  
本年度 148人
- 広島市で一番なこと デリバリー給食の残食率
- 開校当初からの伝統 吹奏楽の伴奏で第九「合唱」  
の全校合唱(ドイツ語)

## 基礎学力の向上

一人ひとりを大切にした授業づくり

情報の共有・一貫した指導

### KUデザイン

- KUデザインチェックリストによる自己評価・授業改善
- KUデザイン実践指導事例集の作成
- KUデザイン実践指導事例に基づく研修会実施
- 計画的な校内巡視による実践の共有

### 巡回指導

- 巡回指導時における（3回）個別の対応の研修会の実施
- 特別支援教育アシスタントの活用
- 個別の対応事例による研修会実施
- 計画的な巡視による支援の共有

# 本日の内容

## 1 KUデザインでの取組 (全体への取組)

スライドNO5~15

## 2 個別の対応 (課題のある生徒への個別の取組)

スライドNO16~21

## 3 まとめ

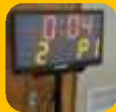
スライドNO22~24

# 己斐上中学校 KUデザイン

※「KUデザイン」の「KU」は「己斐上中学校」を表すと同時に「基礎学力の定着」と「学びのユニバーサルデザイン」を表しています。

## 1 見通しを持たせる工夫

- ① 時間どおりに始めて、時間どおりに終わる。  
(見通し、心理的安定)
- ② 授業の「めあて」を示す。  
(見通し、心理的安定、目的理解)
- ③ 授業の「流れ・スケジュール」を示す。  
(見通し、心理的安定、目的理解)
- ④ 授業の流れをパターン化する。  
(見通し、心理的安定)



## 3 視覚的な情報提示の工夫

- ① 黒板の周りには必要な掲示物だけを貼る。  
(注意の選択・集中)
- ② 黒板には必要なことだけを書く。  
(注意の選択・集中)
- ③ 板書等に視覚的な手がかりを用いる。  
(注意の選択・集中)  
[例:色を変える 囲む マグネットシート等の視覚的な支援]
- ④ 黒板を分割して使う。  
(注意の選択・集中)



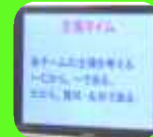
## 2 指示・説明・発問の工夫

- ① 意見や質問は挙手をし、許可を得てから話をさせる。  
(授業のルール確立)
- ② 注目させて、私語や作業を止めさせてから、指示を出す。  
(注意の選択・集中)
- ③ 指示を出した後は、理解したかどうか全体の様子を確認する。(指示理解の把握)
- ④ 理解・記憶を助ける指示を出す。  
(短期記憶や予測、集中を助ける) ※下記を参照



## 4 指導方法等の工夫

- ① 表現の仕方(話す・書く)のモデルを示す。  
(表現のスキルの獲得)
- ② 見せて、読ませてから、書かせる。  
(複数の感覚からの情報の入力・出力)
- ③ 授業に作業・動作を入れる。  
(活動に変化を付ける⇒注意の選択・集中)
- ④ 授業に複数の活動(内容・難易度)を取り入れる。  
(注意の持続、一つは得意な活動を)



### ※④ 理解・記憶を助ける指示を出す。【例】

- 指示は一つずつ出す。(短期記憶を助ける)
- 話す前に事前に予告する。(予測・注意の集中を助ける)  
例:「3つのことを話します」「〇〇について話します」)

- キーワードを書いて示す。(短期記憶を助ける)
- 具体的な指示を出す。(指示理解を助ける)  
例:ちょっと待つ⇒1分待つ



# 1 KUデザインでの取組 (全体への取組)

## ① チェックシートによる

自己評価・授業改善・授業研究

(指導案にKUデザインを記入)

## ② 実践指導事例集の

作成・研修会の実施

## ③ 月間重点取組の設定

# 1 KUデザイン での取組

## ① チェックシートによる 自己評価・授業改善・授業研究

### KUデザインを記入した指導案の例

主な発問・指示	学習活動	教師の指導と支援
◆学校以外の時間をどのように使っていますか。	(1) 単元の見通しを持つ。 ◇学校以外の時間の過ごし方を考えて発表する。 ・宿題をしている。 ・友達と遊ぶ。	○学校以外の生活時間をイメージしやすいうように、下校後の行動の例を挙げさせることで、生活時間の使い方への関心を高めるようにする。
◆中学生の時間の使い方には、国によっていろいろな特徴があるようです。日本や世界の中学生のデータを比較して、中学生のよりよい時間の使い方を提案しましょう。	◇資料1を見て、同じ中学生でも国の違いによって、宿題をする時間やテレビを見る時間に差があることを知る。	○資料1「宿題をする時間とテレビ・ビデオを見る時間」を示す。 ○単元の見通しを示す。 <b>KU1見通し：2めあて</b>
◆資料1のA～Dの4つの国は、日本、アメリカ、シンガポール、ルーマニアです。日本はA～Dのどれでしょうか。 ◆なぜ、そう思いますか。	(2) 本時の課題を把握する。 <b>世界の中学生の時間の使い方から、日本の中学生のグラフを特定する。</b> ◇理由とともに、直感で発表する。 ・勉強してそうだからA	○本時の課題を黒板に提示する。 <b>KU1見通し：2めあて ：3流れ</b> ○本時の流れをカードで示し、1つの活動が終わるごとに取り外していき、終わりが分かりやすいようにする。↓

### 広島市立己斐上中学校 KUデザイン チェックシート

資料 1

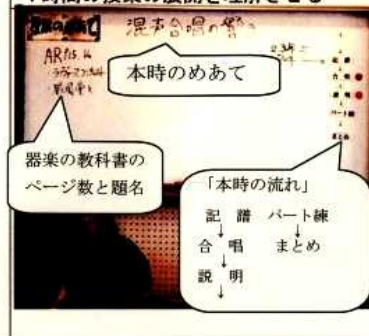
	記入者			
	平成	年	月	日( )
<b>1 見通しを持たせる工夫</b>	かなりやっている	やっている	たまにやっている	ほとんどやっていない
① 時間どおりに始めて、時間どおりに終わる。 (見通し、心理的安定)				
② 授業の「めあて」を示す。 (見通し、心理的安定、目的理解)				
③ 授業の「流れ・スケジュール」を示す。 (見通し、心理的安定、目的理解)				
④ 授業の流れをパターン化する。 (見通し、心理的安定)				
<b>2 指示・説明・発問の工夫</b>	かなりやっている	やっている	たまにやっている	ほとんどやっていない
① 意見や質問は挙手をし、許可を得てから話をさせる。 (授業のルール確立)				
② 注目させて、私語や作業を止めさせてから、指示を出す。 (注意の選択・集中)				
③ 指示を出した後は、理解したかどうか全体の様子を確認する。 (指示理解の把握)				
④ 理解・記憶を助ける指示を出す。 (短期記憶や予測、集中を助ける) ※ 下記の例を参照				
<b>3 視覚的な情報提示の工夫</b>	かなりやっている	やっている	たまにやっている	ほとんどやっていない
① 黒板の周りには必要な掲示物だけを貼る。 (注意の選択・集中)				
② 黒板には必要なことだけを書く。 (注意の選択・集中)				
③ 板書等に視覚的な手がかりを用いる。 (注意の選択・集中) 【例：色を変える 囲む マグネットシート等の視覚的な支援】				
④ 黒板を分割して使う。 (注意の選択・集中)				
<b>4 指導方法等の工夫</b>	かなりやっている	やっている	たまにやっている	ほとんどやっていない
① 表現の仕方(話す・書く)のモデルを示す。 (表現のスキルの獲得)				
② 見せて、読ませてから、書かせる。 (複数の感覚からの情報の入力・出力)				
③ 授業に作業・動作を入れる。 (活動に変化を付ける⇒注意の選択・集中)				
④ 授業に複数の活動(内容・難易度)を取り入れる。 (注意の持続、一つは得意な活動を)				
気付き				
<b>2 指示・説明・発問の工夫 ※④ 理解・記憶を助ける指示を出す。&lt;例&gt;</b>				
○ 指示は一つずつ出す。(短期記憶を助ける)				
○ 話す前に事前に予告する。(予測・注意の集中を助ける) 例：「3つのことを話します」「〇〇について話します」				
○ キーワードを書いて示す。(短期記憶を助ける)				
○ 具体的な指示を出す。(指示理解を助ける) 例：ちょっと待つ⇒1分待つ				

# 1 KUデザイン での取組

## ② 実践事例集の作成 及び研修会の実施

### 1 見通しをもたせるための工夫

#### 1 時間の授業の展開を理解させる



○ 授業開始直後、ホワイトボードに前もって表示している「授業のめあて」「授業の流れ」を基に本時の展開を説明します。「授業のめあて」については数年前から取り組んでいるので、生徒も自己評価表を確認しながら、前時の授業を思い出し、本時の授業をイメージできています。

#### 【めあて】

○ 本年度は、さらに授業の流れをカードにして表示することで1時間の授業の流れを視覚的に確認することができるようにしました。生徒は表示を確認することで「今何をやるのか」「次は何か」「もう少しでまとめ」など、以前、生徒がそれぞれに質問していたことがなくなりました。

【スケジュール】

### 2 指示・説明・発問の工夫

#### 説明のときには注目させる

○ 以前は一つの作業をしながら次の作業の指示を出していたり、作業中に追加の指示や注意をしたりしていましたが、同時に二つの作業（「書くことと聞くこと」、「考えることと書くこと」など）をすることが難しい生徒が多いため、現在は説明や注意をするときは作業を止めて注目させ、説明や指示の理解を確認して作業に取りかかるようにしています。【注目】【一つの活動のみ】

○ また、作業時間に時間を設定（3分間など）し、タイマーなどを利用して区切りを明確にできるようにしました。生徒は決められた時間内に作業を終えようと集中するようになりました。

【時間の明示】

### 3 視覚的な情報提示の工夫

#### 授業の流れをカードや矢印で示す

○ 見通しをもたせる工夫でも示しましたが、授業の流れをカードにして表示をしたり、矢印を使って流れを示したりすることで、より明確に授業の流れを把握することができるようになりました。また、自分自身も授業の流れをパターン化でき、スムーズな流れをつくることができました。【スケジュール（視覚的な提示）】

### 4 指導方法等の工夫

#### 授業の流れをパターン化する

○ 授業の内容をいくつかのパターンに分けることで、1時間の中で短い集中を作り、各内容の集中を高めることができました。



た。生徒にとって、ひとつのことを長時間行うより、短時間の集中をいくつかに分けることで、授業のめあてに迫ることができるようになりました。【授業のユニット化】



# 1 KUデザイン での取組

## ③ 月間重点取組

### 4月の重点取組

「黒板の周りには必要な掲示物  
だけを貼る。」



本年度の教室の前面



昨年度の教室の前面

### KUデザイン 3 視覚的な情報提示の工夫

- ①黒板の周りには必要な掲示物  
だけを貼る。  
(注意の選択・集中)

## 5～6月の重点取組

1 「授業のめあて」を示す。

2 黒板を分割する際は、縦にラインを入れる。



現在

### KUデザイン

1 見通しを持たせる工夫

② 授業の「めあて」を示す。  
(見通し、心理的安定、目的理解)



以前

# 5～6月の重点取組

- 1 「授業のめあて」を示す。
- 2 黒板を分割する際は、縦にラインを入れる。

## KUデザイン

- 3 視覚的な情報提示の工夫
  - ③ 板書等に視覚的な手がかりを用いる。  
(注意の選択・集中)
  - ④ 黒板を分割して使う。  
(注意の選択・集中)



# 7月の重点取組

〈授業のルール確立〉

～聞く姿勢を作る～

- 1 注目させる
- 2 注目しているか  
姿勢はよいか  
確認する
- 3 意見や質問は  
挙手をして  
許可を得てから  
話をさせる



## KUデザイン

### 2 指示・説明・発問の工夫

- ① 意見や質問は挙手をし、許可を得てから話をさせる。(授業のルール確立)
- ② 注目させて、私語や作業を止めさせてから、指示を出す。(注意の選択・集中)
- ③ 指示を出した後は、理解したかどうか全体の様子を確認する。(指示理解の把握)

# 9月の重点取組

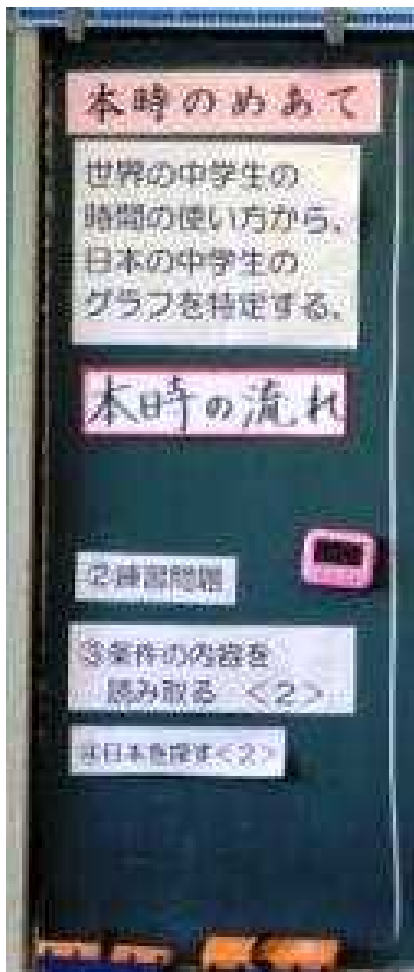
- 1 「授業の流れ」を示す。
- 2 活動の終わりの時間を視覚的に示す。  
(話し合い、写す等)

## KUデザイン

- 1 見通しを持たせる工夫
  - ③ 授業の「流れ・スケジュール」を示す。  
(見通し、心理的安定、目的理解)
- 3 視覚的な情報提示の工夫
  - ③ 板書等に視覚的な手がかりを用いる。  
(注意の選択・集中)



10月から縦10cm横20cmのタイマーを全学級に設置しました。マグネットで黒板に貼れるようになっており、簡単にセットできて、活動の残り時間を目で確認することができ、アラームが終了を知らせてくれます。



# KUデザイン後期の重点取組

## ＜言語活動を充実させる＞

10月【読む・話す】

11月【書く】

12月：協同学習の工夫

【話す・読む 聞く 書く】

感想 対話 報告 説明 解説 発表 討論等

「話す、読む」  
「書く」「聞く」  
「協同学習」の領  
域で後期実践事例  
集の作成を行った。  
(資料3)

### KUデザイン

#### 4 指導方法等の工夫

- ① 表現の仕方（話す・書く）のモデルを示す。  
（表現のスキルの獲得）
- ② 見せて、読ませてから、書かせる。  
（複数の感覚からの情報の入力・出力）
- ③ 授業に作業・動作を入れる。  
（活動に変化を付ける⇒注意の選択・集中）

# 1 KUデザインでの取組の成果 ※資料4

- ①具体的な取組方法が分かった。(KUデザイン)
- ②これまでの各自で行っていた取組の整理ができた。(KUデザイン)
- ③新たに行なった取組の分析を各自で行うことができた。(事例集)
- ④授業改善の取組の情報の共有化や取り入れができた。  
(事例集、研修会、教頭通信 ※資料5)
- ⑤KUデザインを日ごろから意識できた。(様々な取組)  
特に月間重点目標は意識しやすかった。



**KUデザインに基づく授業改善に！**



**授業の分かりやすさ⇒意欲へ**



## 2 個別の対応

(課題のある生徒への取組)

### ① 特別支援教育アシスタントとの連携

(個別の支援の内容モデルによる支援の確認と共有)

### ② 「授業支援を中心とした対象生徒への 配慮事項、及び支援等の一覧」 の作成、及び研修会の実施



# ①個別の支援の内容モデル

書く、聞く、話す、読む、考える、その他の領域において、生徒の様子、原因、支援を想定した支援内容モデルを作成し、アシスタントが活用

個別の支援の内容モデル

資料 6

己斐上中学校

領域	生徒の様子	考えられる原因、または目的	支援
書く	○黒板を写すことが難しい。	○集中していない。	○写すように促す。
書く	○黒板を写すことが難しい。	○視覚的な短期記憶が弱い	○黒板を写した紙を渡して、近くで見ることができるようにする。
書く	○黒板を写すことが難しい。	○漢字を覚えていない ○形の認識の力が弱い。	○難しい漢字を手元で書く。
書く	○黒板を写すことが難しい。	○色マーカーを数多く持っていて選択するのに時間がかかる。	○使用する色マーカーの数を限定する。
聞く	○指示を聞き逃す	○集中して聞くことが難しい	○集中して聞くように促す。
聞く	○指示の内容が分かっていない。	○指示の言葉が理解できない。	○分かりやすい言葉に置き換えて、指示や説明を「短く」「ゆっくり」「具体的」説明する。
聞く	○指示の内容が分かっていない。	○複数の指示の記憶が難しい。	○一つの行動が終わってから次の指示を出す。
聞く	○指示の内容が分かっていない。	○指示の内容を覚えていられない(短期記憶の弱さ)	○指示を復唱させる。
聞く	○指示の内容が分かっていない。	○指示の内容を覚えていられない(短期記憶の弱さ)	○指示内容のメモ用意する。
話す	○発表がすることが難しい。	○話すのに詰まり、次の言葉が出てこない。(短期記憶の弱さ)	○話すのに詰まったら、話し始めの言葉や接続詞を付け加える。
話す	○発表がすることが難しい。	○話し方・まとめ方が分からない。	○話すモデルを提示する。(「～と思います。理由は～だからです」「5W1H」等)
話す	○発表がすることが難しい。	○言葉が見つからない。	○話す内容を分かりやすい言葉に置き換える。(代弁する)
読む	○読むことが難しい。	○漢字が読めない	○読めない文字に振り仮名をふる。
読む	○読むことが難しい。	○区切ることが分からない。	○文を読む際、切って読むところに印を付ける。
読む	○読むことが難しい。	○読むところが分からなくなる。(視覚的認知の弱さ)	○読む行に物さしをあてる。
読む	○読むことが難しい。	○読むところが分からなくなる。(視覚的認知の弱さ)	○読んでいるところに指をあてて読ませる。
考える	○答え方が分からない	○表現方法が分からない。	○答え方のモデルを示す。
考える	○覚え方が分からない。	○どこが重要か分からない。	○重要な文字にラインを引く、及びその指示をする。
考える	○問題の解き方が分からない。	○どこが重要か分からない。	○キーワードに印をつけさせる。
考える	○問題が分からない	○問題の意味が理解できていない。	○問題を分かりやすい言葉で説明する。
考える	○問題が分からない	○問題の内容のイメージを持つことができない。	○図や絵を書いて説明する。
考える	○問題が分からない	○問題の意味が理解できていない。	○分からないところを質問させる。
考える	○問題が分からない	○推論ができない	○ヒントを出す。
考える	○問題が分からない	○推論ができない	○解答を先に示し、なぜそう考えさせる。
考える	○問題が分からない	○推論ができない	○解答の選択肢を用意する。
その他	○課題を達成した。	○評価し行動を強化するため	○評価する。
その他	○良いことをした。	○評価し行動を強化するため	○評価する。
その他	○我慢している。	○評価し行動を強化するため	○評価する。
その他	○見通しを持っていない	○見通し思って活動するため	○本時の活動内容を説明する。
その他	○興奮して話す	○落ち着かせる。	○うなずいて、話を復唱しながら聞く
その他	○目標を立てることが苦手	○達成可能な目標を持つことによる意欲喚起	○具体的な小さな目標を設定する。(スモールゴールの設定)
その他	○忘れ物が多い。	○短期記憶の弱さ	○メモを活用し、確認する。
その他	○忘れ物が多い。	○短期記憶の弱さ	○プリント類等を一つの袋にまとめる。
その他	○その動作を行うことが難しい。	○イメージがもちにくい、目と手の協応が難しい。手指の巧緻性に課題がある。等	○段階的な身体的支援 ずっと手を持って⇒軽く触れる⇒最初だけ・難しいところだけ筆
その他	○やり方が分からない。	○イメージがもちにくい	○モデリングを行う(やって見せる)

# ① 支援内容 の記録

アシスタントが支援した内容を記録し、周知を図り、どの生徒がどのような内容で、どれくらいの頻度で支援が必要かを共有した。

6～12月合計

特別支援教育アシスタントによる個別の支援内容表

資料 7

支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
視覚 ○写すように促す。(注意喚起)	14	15	31	15	73	44	19			1	1	207	
書く ○難しい漢字等を手元で書く。	2	10	9	1	14	2						184	
書く ○黒板を写した紙を渡して、近くで見ることができるようにする。		1	5	1	5	1						58	
書く ○使用する色マーカーの数を限定する。		1											
聞く ○集中して聞くように促す。(注意喚起)	12	5	9	1	35	48	16					4	195
聞く ○分かりやすい言葉に置き換えて、指示や説明を「短く」「ゆっくり」「具体的に」説明する。	5	17	28	16	31	8	14			1	5	172	
聞く ○一つの行動が終わってから次の指示を出す。		1	2		11	10	9				3	156	
聞く ○指示を復唱させる。					2							107	
聞く ○指示内容のメモ用紙を渡す。			1		1							7	
話す ○話すのに詰まったら、話し始めの言葉や接続詞を付け加える。		1	2								2	129	
話す ○話すモデルを提示する。(「～と思います。理由は～だからです」(SW1H)等)												80	
話す ○話す内容を分かりやすい言葉に置き換える。(代替する)	5	6	3		3	3	3					37	
読む ○読めない文字に振仮名をふる。		3	5	2	13	2					3	153	
読む ○文を読む際、切って読むところに印を付ける。		9	7									6	
読む ○読む行に物さしをあてる。	4	7	7	1		1						75	
読む ○読んでいるところに指をあてて読ませる。	3	6	2	1	4						2	84	
答える ○答え方のモデルを示す。		2		3	2	1						80	
答える ○重要な文字にラインを引く、及びその指示を示す。		4	5			3						34	
答える ○キーワードに印をつけさせる。	1	5	3	1	3	3						5	
答える ○問題を分かりやすい言葉で説明する。	7	9	10	14	39	23	19				4	86	
答える ○図や絵を書いて説明する。		2	4	4	5	1							
答える ○分からないところを質問させる。	3	4	4	7	20	5	8				1	1	
答える ○ヒントを出す。		5	16	23	48	25	22				4	97	
答える ○解答を先に示し、なぜそう考えさせる。		3	2	2	7	2	4					13	
答える ○解答の選択肢を用意する。						3						10	
評価 ○課題達成を評価する。	4	5	32	30	44	45	31	2		3	13	165	
評価 ○良い行動をとったとき評価する。	4	4	21	19	41	45	29	8		15	18	172	
評価 ○我慢しているとき評価する。	3	3	2		10	29	9			1	2	92	
評価 ○本時の活動内容を説明する。	2	3	1	1	4	2						53	
評価 ○興奮しているとき、静かにうなずいて、話を復唱しながら聞く。	4				2	5					2	10	
評価 ○具体的な小さな目標を設定する。(スモールゴールの設定)					12	15						75	
評価 ○メモを活用し、確認する。												46	
評価 ○プリント類等を一つの袋にまとめる。					1							100	
評価 ○身体支援	6											12	
評価 ○モデリング	3												

# ①「個別の支援の内容モデル」 の活用と集計の効果

## 特別支援教育アシスタント

- ①具体的な支援の方法が分かった。
- ②生徒の状態や支援の意味が分かった。
- ③今までの支援が整理できた。

⇒効果的な支援へ

## 教員

- ①アシスタントの支援の理解から連携へ
- ②対象生徒の具体的なニーズが明確に
- ③自己の個別の支援の質の高まり

## ②授業支援を中心とした対象生徒への 配慮事項、及び支援等の一覧の効果

①個別の課題や支援の共有化

②他の配慮の要する生徒への  
支援等の拡がり

③個別の支援等への内容や意  
識の高まり

# 3 まとめ①

分かりやすさ・個別のニーズに応じた支援

意欲、できた感、やれてる感、達成感！

学校生活の中心である授業への集中

学級・学校全体の落ち着き

## 課題

- ①取組の継続・発展
- ②学校としての「言語活動の充実」の研究
- ③学習意欲の高い層への支援

# 3 まとめ②

## 来年度に向けて

生徒の「思考力・判断力・表現力」を高めるために「基礎・基本の充実」を図るとともに「言語活動の充実」に、本年度のKUデザインの取組を発展させて取り組む予定です。

### 平成25年度 授業改善の取組について

思考力・判断力・表現力

主体的に学習に取り組む態度

#### KUデザイン

○多様な感覚の活用  
「視覚・聴覚・体感等・・・」

○考える対象・表現する対象を「図」にする  
○考える術・表現する術を「図」にする

「必要な情報を鮮明に！」  
「図の強調！地の整理！」

(図と地：図=必要な情報 地=不要な情報)

各教科で具体的方策及び、重点取組の策定

基礎・基本の  
充実

言語活動の  
充実